



# すくもを藍建てする

令和元年10月分

---

## はじめに

---

今夏は気候の変動が激しい年でした。水害、地震、何かと案じております。

やっと秋風が心地良い時節です。畑一面に赤い絨毯を敷き詰めたように藍の花が咲いています。朝夕冷え込むようになると、花の色が茶色っぽくなってきます。花穂を取って手のひらで揉むと茶色や白色の粒々がこぼれます。これが種です。まだ未熟ですが、実ると濃い茶色の硬い粒々になります。よく実ってくると穂が垂れるようになります。

霜が降りる前に種取りをしなければなりません。良い時期を見計らって花穂を摘んでください。新聞紙や箱の中に入れて天日で乾かします。雀の大好物なので、気をつけてください。よく乾燥したら叩いたり、擦ったりして周りの殻を取り除き、茶色の粒だけにします。来年三月に植えるまで、湿気の少ないところに置きましょう。

種を取った茎は、乾かしておき、煮出すと茶色を染める素材になります。また、種を来年同じ場所に植えるための準備として、土地の中の虫を退治するため、根を掘り返して、農業用石灰を撒いておきます。

---

## 藍 建 て (2kg) (A)

---

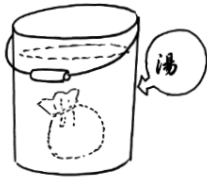
ガイドブック P.108参照

先月解説しましたすくも作りはいかがでしょうか。この手づくりすくもを使って藍建てをします。乾燥葉3kgをすくもにしたら約2kg取れました。これを灰汁(アルカリ性)に入れると、藍の成分が溶け出します。それをお酒やブドウ糖等で還元させて染料にします。これを藍建てとといいます。

今回出来ない方は来年乾燥葉が2kg以上になるまでためて下さい。

【分量】	手づくりすくも	2kg
	灰	乾燥したすくもと同量
	酒	100cc
	工業用消石灰	50g(元石) + 25g(中石) + 25g(止石)

1



灰汁を取ります。袋又は布に灰を入れ、口を縛ります。それをバケツの中へ入れ、湯沸かし器の湯（80℃）を灰の分量の5倍入れます。袋を揉み出すように動かしてアルカリ成分を溶かし出します。2時間以上置いて袋を取りあげ絞ります。もう1つのバケツにその袋を入れ、もう一度80℃位の湯を先ほどと同量入れ、同じように灰汁を作ります。もむようにして取らないとpHが不足します。

こうして3～4回灰汁を取ります。灰汁は、藍建ての時すくも1kgにつき15%必要で、その後、使用する時追加する量として5%必要です。多量になると袋に入れないで直接バケツに灰を入れてよく混ぜ、一日おいて上澄みを取ります。

紙のpH計を使って、灰汁のpHを計ります。紙のpH計は田中直染料店か薬屋で買えます。または、お申し出下されば10枚200円でお送りします。

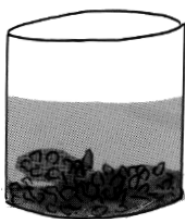
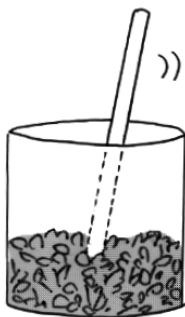
1回目がpH12以上、最後がpH11.5以上必要です。それ以上ない灰は、お湯の量を少なく入れてください。したがって、灰の量が多く入用です。

藍建て用ポリバケツに25gの消石灰を、周りに振りかけるようにして入れます。

一番最後にとったpHの弱い灰汁を、8%鍋に入れて50～60℃位に温め、すくもをこの灰汁でこねてからバケツに入れます。残りの灰汁も入れて棒で50～60回まぜます。液温が40℃位に下がりましたら、お酒を入れて、ポリバケツの蓋をします。これで藍の仕込みが終わりです。

盛夏を除いて藍建て中は保温が必要です。保温マットなら下に置き、電気毛布の場合は下に座布団とかマットを置き上から電気毛布でくるみ、20～25℃を保つようにします。pH計を持っている方は仕上がり時のpHを計ってみてください。pH12前後あれば仕上がりです。

2



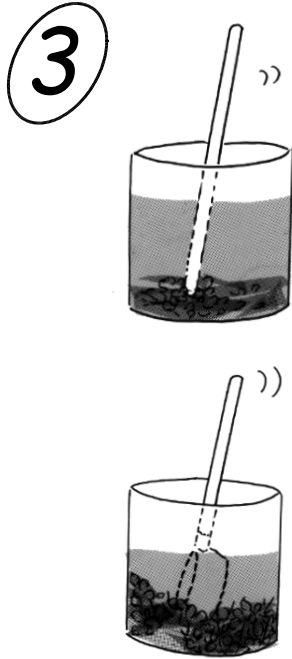


イラスト: 佐川和枝

毎日1～2回、底のすくもが上に顔を出すつもりでまぜてください。

風呂用の棒かシャクでまぜると楽です。40回～50回まぜます。あまり度々開けると温度が下がります。混ぜる時以外開けないようにします。毎日温度を測ってみてください。25℃前後にします。pHは少しずつ下がってきます。3～5日頃に醗酵してくる例が多いのですが、青紫色の大きな泡がしっかりと湧いて消えなくなります。それが還元のはしりです。小さな泡だったり消えたりするようでしたら、醗酵が足りません。待ってください。しっかりと醗酵したら2回目の消石灰(25g)を入れてまぜます。

次の日から、2～3回目にとった灰汁を2日に分けて入れます。仕上がりの量がすくも1kgにつき15%

になるようにします。添付写真の写真③の様な色になったら成功です。

2～3日置くと染められます。染めながら、毎日1回混ぜて色の様子を見ます。順調に出来上がるとしばらく何も入れないで染められるのですが、pHが下がり上面に膜がベッタリはるようになると、3回目の消石灰(25g)を入れます。その後、pHが10.5～11くらいに保つように灰汁を少しずつ足します。pHが強くて染まりが悪い時は、お酒を入れますが、糖分の入れ過ぎは腐る元ですので気をつけます。なお、何日経っても醗酵しない時は、温度が低かったり、灰汁のpHが高かったりの原因があります。あわてないで待ってください。そして質問してください。

## 藍建ての記録

手づくりすくも(乾燥葉3kgをすくもにしたもの)約2kg

灰 すくもと同量

湯10%を灰に入れ、攪拌し、1日置いて漉したものを5回取る。

灰汁のpH	1回目	12.6	8%
	2回目	12.2	8%
	3回目	12.1	8%
	4回目	11.8	8%
	5回目	11.6	8%

工業用消石灰	1回目(元石)	50g
	2回目(中石)	25g
	3回目(止石)	25g
	4回目下がった時に入れる。	30g
酒	1回目	100cc
	アルカリが強くて染まらない時入れる。	50g

- 1日目 45%用のポリバケツに1回目の石灰を周りに振り込む。  
 タライにすくもを入れ、5回目の灰汁を60℃に温め、灰汁でこねる。  
 3~4回目の灰汁も温め、ポリバケツに入れる。その中にこねたすくも  
 を入れてよく混ぜる。(写真②)  
 温度が40℃位に下がったら、お酒を入れる。  
 仕上がりpH 11.7 (写真③)
- 2日目 朝夕混ぜる。液の色は茶色、温度28℃、pH 11.4
- 4日目 液の色は少し緑黒みがかっている。温度25℃、pH 11.1 (写真④)
- 5日目 液に変化無し。アンモニア臭強い。pH 10.8
- 7日目 液の色が青黒く、表面の半分に赤紫色の膜が張る。  
 温度25℃、pH 10.3  
 1回目の消石灰を入れて混ぜる。泡が大粒で消えない。(写真⑤)
- 8日目 温度25℃、pH 11.2
- 9日目 2回目の灰汁を半分入れる。
- 10日目 温度23℃、pH 11.6
- 11日目 2回目の灰汁の残りを入れる。温度22℃、pH 11.9  
 液の色は紺紫色。華が咲いている。粉のように灰のカスが浮いている。  
 pHが強いしるし。
- 14日目 すくもを開始。ただし、アルカリが強くて薄い。(写真⑥)
- 18日目 pH10.7 表面の色も膜が出るようになり、泡もしっかりと咲く。  
 1回目灰汁300ccを足す。
- 24日目 pH 10.3 灰汁200ccを入れる。
- 30日目 pH 10.1 灰汁200cc、酒50ccを入れる。
- 37日目 pH 10.0 消石灰200g、灰汁200ccを入れる。
- 40日目 色が薄くなったので記録を停止する。

少量のすくもがいつまで持つか、記録を取ってみました。醗酵の力が弱いので、初めの醗酵までに時間がかかりました。また、本すくもより容量が多いので、灰汁の量を多くしないと混ぜられない結果も出ました。3回目の石灰は、灰汁が強かったので使いませんでした。

この記録は、灰汁のpHによって大きく違いが出ますので、自分の使う灰のpHを確かめてください。

灰が手に入らない場合は、苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)を使用します。ただし、劇薬ですから手袋をして使用してください。購入には、薬局で印鑑が必要

です。藍建て用としてください。なお、保存には十分に気をつけてください。  
使用料としては、1%に3gを使用します。

---

## 藍 染 め

---

さあ染めましょう。

まず第一に必ず混ぜる前に染めることです。それから染める量を適量にせねばなりません。3キロ建てで1回に50～100g迄、それを一日に2～3回迄と定めます。これが長持ちの第一条件です。一日で終わらせたくない人はこれを守ってください。

染める素材はそれぞれ目的があると思いますので、ガイドブックの112頁「染め方」の所を読んでください。

素材はぬるま湯に浸してから染める場合が多いです。むらを防いだり、のりを取ったりする必要があるからです。もちろん素材は、精練の出来たものでないといけません。やり方については精練の所を読んでください。

浸した布を脱水し、1～3分染めます。しばって広げ、手早く空気酸化させます。1～3分して青くなったら又染める。これを数回くり返します。日を置いて好みの色になるまで染めます。ただし、自作の藍は濃紺になりません。

染め終わると水につけて灰汁を流し、また水を変えて流す、をくり返します。洗濯機で回すのはよくありません。表面しか染まっていないので色落ちしてしまいます。これよりもっと濃色にしたい場合は水につけておき、次の日に染め重ねてください。ハンカチ等小さいものはいいのですが、Tシャツ以上の布や糸になりますと、下のすくもが付いて来ますので、金網等を沈めて染めるとよいでしょう。染め上げましたら、汲み置き水に一昼夜漬けて灰汁を流します。中性洗剤で洗ったり、酸中和をして仕上げる場合もあります。裏を表にして陰干しをします。

---

## 新しいすくも作りについて

---

残念ですが、少量のすくもを藍建てしますと、濃い色が染まらず、緑がかかった色になります。手間はかかりますが、紫紺のしずくの方が濃い色が染まります。サンプルをお送りしたので、確認してください。

もう一つ、乾燥葉を炊飯ジャーに入れて、紫紺のしずくを作る方法を考えました。今年のスクーリングで発表することにします。もちろん参加できない方には、来月プリントをお送りします。

---

【同封したもの】

- 染めサンプル ● 写真集（A4用紙に写真①～⑥を印刷したもの）
- 写真資料「新藍建」
- 藍花の葉

（多雨により、藍が茎だけ伸びて、葉がなくなってしまいました。葉を送って欲しいとご相談いただいていた方々には、残念ながらお送りすることができません。せめてものお詫びに、花がたくさん咲きましたので、ドライフラワーにして葉を作りました。心ばかりの品ですが、どうぞお使いください。）